歴史ある町並みを後世に繋ぐ！

NPO法人 小保・榎津 藩境のまち保存会 理事長 中村 隆志 さん

住　所：〒831-0004
大川市大字榎津523
TEL：0944-87-0931
HP：https://hanzakai.com

環境整備活動

今回の夢追い人は、NPO法人小保・榎津 藩境のまち保存会　理事長の中村隆志さんにお話を伺いました。

保存会は、もともとは〝藩境のまちづくりを考える会〟という形で、2009年に立ち上がりました。その後、2016年に法人化、中村さんは設立当時から理事長を務められているそうです。また、第20回福岡県景観大会では最優秀賞を受賞されています。

「藩境というのは、もともと小保・榎津を中心に、大川の木工業が発祥した地域なんです。昔は船大工さんがいらっしゃって、その船大工さんたちの技術がだんだん家具や建具の技術に受け継がれていって、そこから大川の木工業が発展してきました。江戸時代には町並みに流れ込んでいた江湖（えご）という水路を境に久留米藩と柳河藩に分かれていました。昔はこの辺りに木工所や家具屋さん、建具屋さんがたくさんあって、軒を連ねていたそうです。今はだいぶ少なくなってきましたけど、当時はそういう職人さんたちが集まっていた場所だったんですよね。だから、ここは大川の木工業の歴史を語るうえでも、すごく大事な場所だと思っています。こういう町並みがなくなってしまうと、木工業がどうやって始まって、どう発展してきたのかという歴史を伝える場所もなくなってしまいますからね。」

第 20 回福岡県景観大会 表彰式

町並み案内活動

町家見守り活動

保存会では、〝藩境まちづくり宣言〟というものを大切にされているそうです。

「旧い家並みと彩りあふれる伝統のまち、歴史が薫る柳河・久留米藩境のまち、職人の暮らし息づく木工発祥のまち、という3つを掲げていて、こういう町並みが１００年後もこの場所に残っていて、そこに住んでいる人たちが活き活きと暮らしている、ということを私たちは夢見ています。」

具体的にどのような活動をされているのでしょうか？

「一番重要視しているのは、町並みの見守り活動です。定期的にお家を訪問して、何か不具合がないかを聞いて回っています。少しでもここがおかしいなというところがあれば、できるだけ早めに対応するようにしています。小保・榎津には、昔からの伝統的な建造物が残っていますが、建て替えや取り壊しで更地になったりして、少しずつ減ってきているんですよ。今残っている建物をできるだけ長く残していくということが大事だと思っています。それと、見守り活動を通して住民の方と私たちが実際に顔を合わせることで、信頼関係を築いていくということも大切にしています。何か困ったことがあったときに、まず保存会に相談してみよう、と思ってもらえるような関係をつくっておきたいんです。そのほかには、街なみ環境整備事業推進活動も行っています。建物の修理などをする際に補助金が出る制度があるので、そういった制度を利用してもらえるように、保存会がお手伝いをしています。また、文化庁が進めている伝統的建造物群保存地区、いわゆる〝伝建〟を目指す活動もしています。伝建に選定されると、町並みが残っている間は、修理などに対して継続的に国からの補助を受けられるようになります。藩境も将来的にはそういう地域になれるように、活動しています。それから、登録有形文化財を増やしていくことも目標の一つです。登録は団体ではなく、建物の所有者である個人が申請する形になるので、書類の作成や建物の調査などを保存会でお手伝いしています。こうした一つひとつの活動を通して、この町並みの価値を高めていって、できるだけ多くの建物や歴史を次の世代に残していきたいと考えています。」

今、一番の課題として考えられるのは、空き家の再生活用だそうです。

「この地域にも空き家が少しずつ増えてきているので、ただ空き家を保存するというだけではなくて、今ある建物をできるだけ使える状態で活用していけたらと思っています。例えば、ものづくりの体験工房のような場所として使ったり、実際に職人さんに入ってもらって、そこで仕事をしてもらえたら一番うれしいですね。また、そうやって空き家を活用することで、宿泊施設や飲食店などの新しいお店も少しずつ増えていけばいいなと思っています。これまでは「守っていく」「保存していく」ということを大切にしてきましたが、これからはそれだけではなくて、残した建物をどう活用していくか、ということも考えていきたいと思っています。」

11月7日には第９回九州・沖縄町並みゼミ 小保・榎津大会をワークピア大川で開催されるそうです。

「当日は、文化庁から講師の方をお呼びして、町並み保存についての講演をしていただく予定です。それに加えて、私たち保存会からこれまでの活動について報告したり、市役所からも取り組みについて報告していただいたりします。こういう機会を通して、藩境の町並みについて知ってもらうだけでなく、全国の町並み保存に関わっている方たちと情報交換をしたり、これからの町づくりについて考えたりする場にできればと思っています。」

日々、小保・榎津藩境のまちを守る活動を行われている中村さん。そんな中村さんの夢はなんでしょうか。

「私の夢としては、ここを一つの観光拠点にして、観光客の方を受け入れられるような体制をつくっていけたらいいなと思っています。特に、ただ町並みを見て歩くだけではなくて、実際にものづくりを体験したいというお客様を受け入れられるような、空き家を活用したものづくり体験工房をつくりたいと考えています。大川は、ものづくりのまちですし、素晴らしい技術を持った職人さんもたくさんいらっしゃいます。そういった職人さんの技術に触れてもらって、町並みを歩きながら、実際にものづくりも体験してもらう、〝町歩き＋ものづくり〟という形で、大川ならではの魅力を発信していけたら、観光の面でも大川をもっとアピールできるんじゃないかなと思っています。」